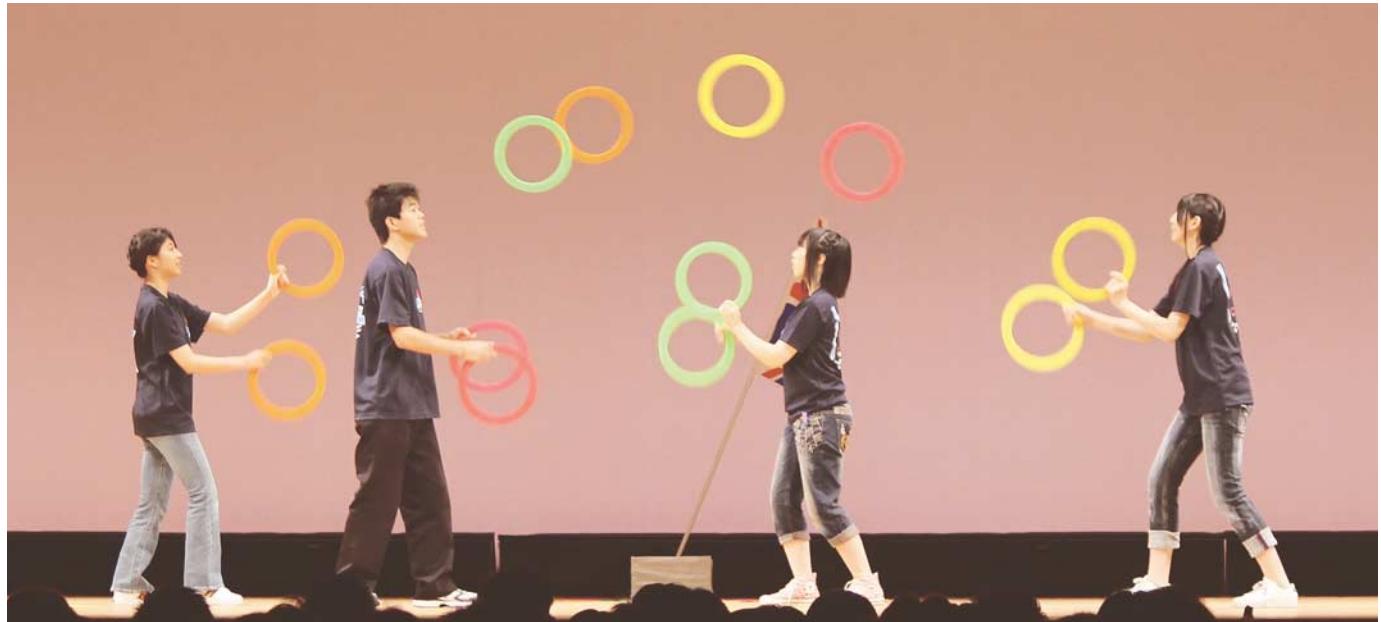


福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
(福井県生活学習館「ユー・アイふくい」内) 掛 谷 龍 一



藤島高校ジャグリング部

去る十一月十日(土)に福井市の響のホールにおいて多数のご来賓の方々や各校PTA関係者の皆様の出席を得て、福井県高等学校PTA連合会創立五十周年記念式典を挙行しました。

これは、県高P連が昭和三十六年六月に福井県高等学校PTA連絡協議会として発足し、翌年の六月に第一回の総会を開催してから、今年で五十年を迎えたことを記念し、創立五十年記念事業実行委員会が中心となり開催したものです。

まず、藤島高校ジャグリング部によるアトラクションが行われ、高校生たちはつらつとした演技に惜しみない拍手がおくられました。

記念式典は、物故者への黙とうを行つたあと、高橋一郎実行委員会委員長の開式のことばで始まりました。

国歌斉唱に続き、掛谷龍一県高P連会長が「県高P連は、この五十年間、高校教育において縁の下の力持的な活動を地道に続け、充実した高校生活実現のため結集してきた。しかし近年、高校の教育内容は大きく変化してきた。うえ少子化による学校再編が進むなど、高校教育のあり方が問われている。諸課題の解決のため、いつそうの前進を遂げる必要があり、五十年を節目として、さらに積極的な活動を展開し、



平成二十六年八月に福井県で開催される全国高P連大会の成功、また、高校生のサポーターとなるよう頑張りたい」と式辞を述べました。

ご臨席いただいた来賓からは、まず、西川一誠福井県知事が「PTAの発展に尽くされた歴代の会長や関係者の皆様に、深く敬意と感謝を申し上げます。家庭・地域・学校等で受け継がれていく良き伝統文化や安定した環境、人ととのネットワークが強く残っていることが福井県の教育力を高めている要因で、高校教育の充実を図るために、授

**盛大に高P連創立五十年を祝う
記念式典・記念祝賀会を開催**



業のみならず、スポーツ、文化活動にも、いつそうのバツクアップをお願いします」と祝辞を述べられました。続いて、吉田伊三郎福井県議会議長からは、「資源が少なく急速に少子高齢化が進む我が国にとつては、人づくりが何よりも重要です。これから社会を支える生徒たちには、国際的な視野を広げ、異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが必要であり、県議会としても、学力・体力の向上、安全・安心の確保、いじめ・不登校問題など本県の高校生を取り巻く課題に対し、全力を挙げて取り組む所存です」と、お祝いの言葉を頂戴しました。

山本道雄福井県高等学校長協会会长（羽水高校校長）からは、「内外に問題が山積する中、各学校において生徒の

会として、学力・体力の向上、安全・安心の確保、いじめ・不登校問題など本県の高校生を取り巻く課題に対し、全力を挙げて取り組む所存です」と、お祝いの言葉を頂戴しました。

からは、「資源が少なく急速に少子高齢化が進む我が国にとつては、人づくりが何よりも重要です。これから社会を支える生徒たちには、国際的な視野を広げ、異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが必要であり、県議会としても、学力・体力の向上、安全・安心の確保、いじめ・不登校問題など本県の高校生を取り巻く課題に対し、全力を挙げて取り組む所存です」と、お祝いの言葉を頂戴しました。

★感謝状贈呈者御芳名(順不同)

福野家光様
伊藤嘉治様
中野英夫様
嵐川幸男様
明石晴様
齊藤将親様
和田俊秀様

未来に光を当てて充実した高校生活が送れるよう、教職員が一丸となつて支援していきます。青少年の健全育成のため学校、家庭、地域を結ぶ架け橋としてPTAは重要な役割を担つております。学校側も全力を尽くしたいとの祝辞をいただきました。

その後、県高P連の発展や高校生の健全育成などに貢献された七名の方々に掛谷会長から感謝状と記念品が贈呈され、記念式典は終了しました。



記念式典終了後、ゲンキー株式会社代表取締役社長の藤永賢一氏による「子どもの人生」と題した、記念講演が行われました。氏は、昭和三十七年に福井市で生まれ、県高P連と同い年です。福井大学を卒業後、民間会社を経て現在の会社を起こされました。

冒頭、「国内産業の空洞化が進み、差社会が到来する」と指摘し、「子どもたちに『勝ち組』となつてほしい」と力説されました。

また、「福井県に『一番』が多い理

由は、県土がコンパクトであり、大家族が多いことによる。親は『身の丈にあつた生活を』『高望みはだめ』と言ふが、一番を目指せる分野を見つけることが重要」と続けられました。さらに『しつけ』『あいさつ』が大事。一生懸命やつた子どもだけが『悩み』や『気付き』がある。常識は同質化であり、非常識が差別化となる。大人にとって都合の良い子にしてはだめ」と、保護者にとつて耳の痛い話もされました。

藤永賢一氏は、福井弁で終始分かり易く、随所に笑い話も交えて話され、今後の高校生の生き方について多くの参加者に示唆を与えていただきました。（記念講演の詳細は、五十周年記念誌に掲載します）

その後午後五時三十分より、ユアーズホテルフクイに会場を移し、記念祝賀会が開催されました。

ご出席いただいた来賓の林雅則福井



県教育長による乾杯のご発声で、賑やかに開宴した祝賀会には、多数のご来賓に加え、記念講演の講師である藤永社長も参加され、花を添えていただきました。

参加者は、時が経つにつれ代わる代わる席を移動し、日ごろのPTA活動や生徒の生活状況など、単位PTAの垣根を越えて活発に懇談していました。また、参加された歴代県高P連会長も登壇され、在任当時のエピソードを披露していただきました。

祝賀会のクライマックスには、勝山左義長ばやし保存会の方々による賑やかさの中に華やかさ漂う左義長ばやしのアトラクションも披露され、大島友治元会長の万歳三唱により、和やかに閉宴しました。

県教育長による乾杯のご発声で、賑やかに開宴した祝賀会には、多数のご来賓に加え、記念講演の講師である藤永社長も参加され、花を添えていただきました。

参加者は、時が経つにつれ代わる代わる席を移動し、日ごろのPTA活動や生徒の生活状況など、単位PTAの垣根を越えて活発に懇談していました。また、参加された歴代県高P連会長も登壇され、在任当時のエピソードを披露していただきました。

祝賀会のクライマックスには、勝山左義長ばやし保存会の方々による賑やかさの中に華やかさ漂う左義長ばやしのアトラクションも披露され、大島友治元会長の万歳三唱により、和やかに閉宴しました。



七月六日(金)・七月七日(土)、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)を主会場に、北信越地区高P連研究大会が開催されました。当日は雨模様でしたが、本県からの一六三名をはじめ、多くの参加者が集まりました。

開会式では、富山県副知事をはじめ、多くの来賓のご臨席を賜り、毛利一朗北信越高P連会長が「高校生になると親子の関係が薄くなりがちだが、子どもたちともっと関わり合いを持つて、共に学んでいくて欲しい。子どもたちが未来に向かって心豊かに成長し、夢を実現できるように、PTAとして何ができるか考え、悩みや不安を共有し対策を考える大会にして欲しい」と挨拶されました。続いて、三輪一朝全国高P連副会長が「地域との関係が希薄になっている今日、私たち保護者は子どもと一緒に地域活動に参加していくことで、PTAとしての意識を高め、子どもたちを守り育てるという観点で、活動を続けていかなければならぬ」と述べられました。引き続き、PTA活動に功績のあつ

「和をもつて響き合え！」みんなで広げる共育の輪

た三〇名の方々に表彰状が授与されたのち、富山県副知事、富山市長の祝辞があり、開会式は終了しました。

歓迎アトラクションでは、富山県立南砺平高等学校郷土芸能部の皆さん

ステージがありました。南砺平高校は、民謡や郷土芸能が多く残る越中五箇山にある学校で、高校生が熱心に民謡・郷土芸能を学習し保存に努めている姿は感動を与え、満場の拍手を浴びていました。

その後、四会場に分かれて行われた分科会では、各県代表のテーマに沿った素晴らしい実践発表が行われ、他校で行われている活動のヒントを研究することことができました。

二日目には、主会

場の富山芸術文化ホールで、昭和女子大学学長坂東眞理子氏が『日本が必要とする二十一世紀人材』といふ演題で記念講演をされました。氏

は「グローバル化した現代で生きていける人材となるには、行動力・論理的な思考力・コミュニケーション能力が必要」と力説され、時間が短く感じるほど内容の充実した講演でした。

次いで、来年度から高校で実施される新教育課程に関する説明が、文部科学省よりありました。

閉会式では、大会宣言文を採択し、

次期開催地新潟県の高P連会長挨拶、富山県高P連会長閉会挨拶があり、二日間に渡って行わられた研究大会は幕を閉じました。



☆本県の栄えある受賞者

荒木 武芳 道守高校PTA会長

北 聖一 工大福井高校PTA会長

北 满秀 春江工業高校PTA会長

小林 茂美 福井商業高校PTA会長

澤井 祐淨 武生池田分校PTA会長

松村 充 丹生高校PTA会長
(敬称略・役職は二十三年度)

☆本県の分科会発表者

第一分科会 高校教育とPTA

三上 晃生 足羽高校PTA会長

平 成江 足羽高校PTA副会長

第二分科会 進路指導とPTA

角野 雅之 敦賀気比高校父母と教師の会副会長

第三分科会 生徒指導とPTA

下出 良一 金津高校PTA総務委員長

第四分科会 家庭教育とPTA

橋 るみ 武生工業高校PTA会長
『たくみそば』から家庭の絆を



「報告書」の中の生徒の文章の一部です。この報告書は各学校にありますので、興味・関心のある方はご覧下さい。

催のオーストラリア生活体験研修は、県内六校から十三名の生徒が参加して実施されました。それぞれの若い感性で異国文化やもの考え方など、日本本の学校では経験できない素晴らしい発見や感動を体験してきました。

八月三日～十七日

オーストラリア生活体験研修

第六十一回全国高等学校PTA連合会大会 和歌山大会



紀州和歌山、

この地に八月
二十三日(木)・
二十四日(金)
の二日間にわ
たり、全国か
ら一万人余の
会員が参加し、全国高等学校PTA連
合会大会が開催されました。

「和をもつて響き合え！」
キーワードは
「和と共育
～つれもて広げる共育の輪～

これは人と人の「つながり」を再認識し、子どもも大人も共に育つ社会をめざすために私たちがやるべきことは何かを真剣に取り組んでいく場にしたいとの願いが込められたものでした。

全国高P連、相川会長は開会式で、東日本大震災の被災者へのお見舞いと、全国からの義援金に感謝の意を表され「義援金活動は継続します。自然災害の恐ろしさを痛感しながらも、人との絆の大切さを感じました。前に進むために我々は何をすべきかを考えるとともに、PTAと地域コミュニティとのかかわりを真剣に考えるべき」と述べられ、「保護者が正しい情報を共有し、子どもたちのために、より充実した活動を熱意と思い取り組んでほしい」



これは人と人の「つながり」を再認識し、子どもも大人も共に育つ社会をめざすために私たちがやるべきことは何かを真剣に取り組んでいく場にしたいとの願いが込められたものでした。



と挨拶されました。

開会式の前後に行われたアトラクションは、吹奏楽、和太鼓、少林寺演武、箏曲と地元ならではの演目が高校生によって見事に演じられました。

その後、基調講演があり、あの奇跡の小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャーを務められた、宇宙航空研究開発機構シニアフェローで宇宙科学研究所教授の川口淳一郎氏とそのサポート活動に貢献された、和歌山大学観光学部、尾久土正己教授が講演されました。人類未踏の想像を絶する挑戦に挑まれたお二人からは「自分の力を信じて、臆せず進むこと。高い志を立ててみなければ新しい水平線は見えない。」との大会宣言を採択し幕を閉じました。

二日目は、次の各分科会会場に分かれて協議を行いました。

【第一分科会】

「学校教育とPTA」

社会性を身につけ「生きる力」を育む教育とPTA活動

【特別第一分科会】
「防災教育とPTA」
自助・共助を育む防災教育の推進
【特別第二分科会】
「地域コミュニティとPTA」
熟議「子どもも大人も、共に育ち、
育て合うPTA活動」
いずれの会場でも、外の熱気を負けないほど、熱心な参加者同士が熱い議論を闘わせていました。
そして閉会式では、

二日目は、次の各分科会会場に分かれて協議を行いました。

【第二分科会】

「進路指導とPTA」

一人ひとりを大切にする進路指導とPTA活動

【第三分科会】

「生徒指導とPTA」

規範意識の確立と命の尊さを伝え

【第四分科会】

「家庭教育とPTA」

もう一度考え方
割とPTA活動

【第五分科会】

「家庭教育の役

規範意識の確立と命の尊さを伝え

【第六分科会】

「PTA活動

もう一度考え方
割とPTA活動



【第七分科会】

「PTA活動

もう一度考え方
割とPTA活動



【第八分科会】

「PTA活動

もう一度考え方
割とPTA活動



◎おめでとうございます◎

【文部科学大臣表彰】

● 団体 勝山南高等学校PTA

【全国大会会長表彰】

● 団体 道守高等学校育友会

● 個人 武生東高等学校PTA

● 個人 前高P連副会長

● 個人 新谷 正浩

● 個人 西島 和之

福井県高等学校 PTA指導者研修会

嶺北・嶺南の二地区で開催

との出会いが多くなっていくのではな
いか。親や家族、出会う人たちからも
らう優しさが、子どもの心に残り、そ
の積み重ねが子どもを育していくのだ』
と話されました。



本年度のPTA指導者研修会は、嶺
南地区が九月八日(土)に三方青年の家
で開催されました。

最初にホテルアーバンポート取締役
の山岸和恵氏の『人との出会いが心を
育てる』というテーマで講演が行われ
ました。氏は『人との第一の出会いは、
自分の親、家族であり、家庭で教えら
れたことが今も役立っている。また、
教えることは学び合うことである。次
に出会う地域社会の中で、子どもは何
かを吸収し、自分なりに成長していく
ものである。親が先回りをして言つて
しまうと、子どもは自分で考えること
をしなくなり、それは“教えること”
にならない。ある人に憧れて入社して
きた人は、その人を目指して頑張り、
憧れの人と一緒に伸びるものである。
夢と希望を持ち続けることで、より人



続いて、若狭東高校PTA会長の岡
本康次氏から「本校のPTA活動」新・
若狭東高校誕生」というテーマで実
践発表がありました。「親子ふれあい
喫茶」をすることで、子どもと触れ合
い、会話ができる良かつたことや、学
校年間カレンダーの作成により、親か
らは学校のスケジュールや行事等が分
かって好評であること、また平成二十
五年度から新・

若狭東高校が誕
生するが資格・
検定の充実や地
域との連携を今
まで以上に深め
ながら、
*一人ひとりの
夢を実現する
学校

* 地域と共に歩
む学校

* 国際的視野を
養う学校

を目標していき
たいと発表され
ました。

一方、嶺北地区の研修会は、九月十
五日(土)に県生活学習館で開催されま
した。

まず前田工織株式会社社長の前田征
利氏から『人生とは学び続けることで
ある』の演題で、基調講演がありまし
た。グローバルな若者を育てる目的で
「MDK海外留学支援制度」を創設し、
福井県内の学生や福井県出身の県外学
生を対象に海外留学を支援していると
のお話に、郷土のために尽くしておら
れることに感銘を受けました。また、
最近の親は子供を叱らないことから
「あなたは、本気で自分のことを叱っ
たことがありますか。」との問には
深く考えさせられました。さらに「本
気であれば何でも面白い」「本気であ
れば誰かが助けてくれる」と、「本気」



嶺南地区、嶺北地区を問わず、いず
れのPTAも活動の活発さと共に、地
域・保護者・学校とのよりよい関係の
構築のために邁進されている様子が感
じ取れる、素晴らしい発表でした。

武生東高校では、四月のPTA入会
式から始まり、毎月年間を通して数多
くのPTA活動がなされており、活発
さがうかがえました。特に、「地区別
懇談会」に関しては、この懇談会から
上がってきた意見により、多くの問題
が解決できているようでした。遠方か
らの通学者の意見も採り上げることが
できており、他校でもとても参考にな
る事例でした。

休憩の後、藤島高校PTA会長の金
井亨氏、武生東高校PTA会長の小谷
敬子氏から実践発表がありました。特
に、「PTA通信」「PTA講演会」など、
の内容の濃さ、多方面に渡る取材力に
本当に圧倒されました。

こそ先輩」「職業観育成講座」「キャリ
ア教育講座」「PTA講演会」など、
数多くの活動が紹介されました。特に、
「PTA通信」の発行に関しては、そ
の内容の濃さ、多方面に渡る取材力に
が大切であることを話されました。

すよと ぶじゅやましまへす!

金津高校

Introduction

金津高校の校門をくぐると、その中からは広く伸びやかな雰囲気が感じられます。「親・真・信」を校訓として歩んできた三十年の歴史は、坂井地区の雄として確固たる学舎を創出し、その歩みの確かさを証明しています。



創立30周年記念式典

記念式典では、金津高校に対する地域の熱い思いと歴史を支えた方々の喜びが、式場を包み込む発展を誓いました。今年迎えた三十周年年は、金津高校に対する地域の熱い思いと歴史を支えた方々の喜びが、式場を包み込み、明日へのさらなる発展を誓いました。金津高校のPTAは、総務補導委員会は、五月と九月に登下校指導を行いますが、七月には地元の夏祭りの巡行も行っています。PTAとしての活動報告をはじめ、学校行事のようすなど、生徒の取り組みがよく分かるように紙面作りを工夫していくことでした。



秋の研修会

十年以上も継続しているとのことです。参加したみなさんのは、汗いっぱいの笑顔が浮かんでいます。秋の研修会は大学訪問となつていて、今年はノーバル賞受賞に沸く京都大学に行かれました。

たそうです。京都大学に行かれました。

補導委員会は、PTAだよりを年三回発行されていることがあります。PTAとしての活動報告をはじめ、学校行事のようすなど、生徒の取り組みがよく分かるように紙面作りを工夫していくことでした。

なお、有志で構成された母親委員会は、学校祭でのジュース販売などを実施しているそうです。生徒と語れる機会でもあり、また熱中症対策としても大切なことです。頑張っていますとのことでし

た。他には、毎年二月に「教育を語る会

を実施しており、学校の各部長および主に研修会と教育を語る会で、研修会は年に二回、夏と秋に実施しているそうです。特に夏の研修会では、教職員や、進路結果、生徒指導など様々な話題を話し合い、一年を総括しているそ

うです。

どこのPTAも願いは同じで、生徒

補導、広報、母親の委員会が設けられ

ています。総務委員会の活動内容は、隣接する丸岡高校PTAとともに、保護

をしていきたいと考えます。

さて、金津高校のPTAは、総務、

補導、広報、母親の委員会が設けられ

ています。総務委員会の活動内容は、

主に研修会と教育を語る会で、研修会

は年に二回、夏と秋に実施しているそ

うです。特に夏の研修会では、教職員

や参加を希望する生徒とともに、保護

者が清掃ボランティアを行うとのこと

です。

夏休み最初の土曜日二時間を使つて、

JR芦原温泉駅構内の清掃や通学路の

除草を行う中で、地域への貢献や地域

と家庭との協力・連携、親子のコミュニケーションという目的が達成される

のだそうです。なおこの取り組みは二

回のPTA会長西裕司

この企画は、調査広報委員が直接「ちょっとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。

敦賀工業高校

Introduction

十一月の初旬、若狭高校PTA担当の上北先生と二人で敦賀工業高校を訪問しました。

まず目に入つたのが、校舎に大きくなつた「ものづくりコンテスト全国大会出場」の垂れ幕。敦賀工業高校のテーマである「ものづくりは夢づくり」を実践し、高校生の技能五輪とも言われる大会に出場するとのこと。いや、素晴らしい! ものづくりに携わる若者が着実に育つている事に、同じものづくりを仕事としている私は、日本の将来も捨てたものじや無いと、安堵しました。

当校の特筆すべきこととして、卒業生

の八〇%の生徒が就職を希望してい

るのも関わらず、就職内定率が一〇〇%

だということです。これも歴代卒業生

が、各企業で確固たる地位を確立され

ているからこそだと思います。

また、新入生が、入学当初から自

の進むべき道をおおよそ決めてい

るのも感心しました。そのことが、皆さ

んもご存じのとおり、各難関資格に多

数の生徒が合格して、新聞紙面を賑わ

せている事実

につながっています。

次にPTA活動の特色で

いります。

敦賀市内の三校が集まり十年以上も続

けています。そこで、何とも嬉しいこと

です。

小浜の三校も、PTA三役のみの懇親

会をするに留まっていますが、まずは

第一歩からで、これからです。

最後に、敦賀工業高校の生徒が、い

きいきと学んでいる姿を見て、ものづ

くりと並び重要な位置づけにある水産

加工の専門課程校が消えていくのに

いります。

最後に、敦賀工業高校の生徒が、い

きいきと学んでいる姿を見て、ものづ

くりと並び

生徒が進路を考えるに当たり、保護者が果たすべき適切な役割について認識を深め、進路決定や生き方などについての指導性を發揮できるよう、例年、PTA キヤリアガイダンス研修会を開催しています。

本年度は去る十月十三日(土)、県立図書館を会場に元FBCアナウンサーで現在はフリーの阿部真由美さんを講師に迎え、「私のアナウンサー生活」と題し講演会を実施しました。

ラジオやテレビなどで皆さんにもお馴染みの阿部さんは、冒頭から「五歳の娘しかいない私に、高校生の進路は話せない」と謙遜しながらも、「私もかつては大学受験生であり、進路を決定してきた経験を話したい」と、講演というよりも軽妙でユーモアあふれるトークとなりました。

まず、アナウンサーを志した理由として、中学進学時に両親から英語の勉強用にと買つてもらつたラジオから流れる深夜放送に感化されたこと、また、テレビ番組から影響を受けて海外に興味を持つたことを挙げ、「両方を実現できるのはアナウンサーではないか」と、漠然と意識するようになったそうです。加えて、「当時あこがれていたアイドルに会えるかもしないと期待していました」と、会場の笑いを誘う場面もありました。

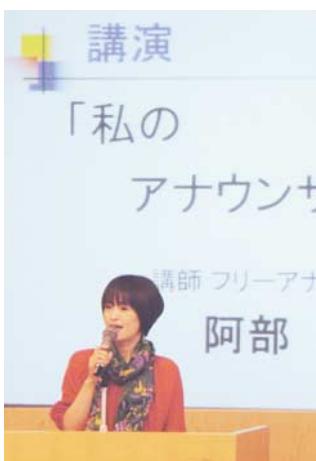
本年度は去る十月十三日(土)、県立図書館を会場に元FBCアナウンサーで現在はフリーの阿部真由美さんを講師に迎え、「私のアナウンサー生活」と題し講演会を実施しました。

ラジオやテレビなどで皆さんにもお馴染みの阿部さんは、冒頭から「五歳の娘しかいない私に、高校生の進路は話せない」と謙遜しながらも、「私もかつては大学受験生であり、進路を決

定してきた経験を話したい」と、講演というよりも軽妙でユーモアあふれるトークとなりました。

最後に「辛いことや悲しいことがあっても、好きなことが夢や希望を支えてくれる。辛いと思う事にも別の側面があることを子どもに示したい」と話し、元気いっぱいの講演は終了しました。

わが子に何事も押し付けず、自分で選択できるよう後押しすることが必要を感じ、反省しきりの一日となりました。



キヤリアガイダンス研修会

平成二十四年十月十三日(土)

全国大会のテーマ決まる

大会開催に対する協力・支援についてでした。

平成二十六年に福井県で開催される第六十四回全国高等学校PTA連合会

大会のテーマが決まりました。

九月二十九日に県生活学習館で開催された第二回準備委員会で慎重に協議した結果、「教育と考査」→「未来に引き継ぐ知と恵み」となりました。時代の大きな変貌のなかでとくに流れてしまいそうな今だからこそ、PTA

の原点に立ち返り、参加者と共に学び(知)、子どもたちの幸せ(恵み)を考える(考査)大会にしたいとの思いが込められています。

この大会テーマにふさわしいポスターやシンボルマークの募集が始まりました。沢山の生徒の皆さんの応募を期待しています。また、総務・全体会式典・資料広報・歓迎・分科会の五つの専門部会も動き始めました。一万人規模の全国大会は、多くの会員の皆様のご協力がなくてはできません。これから何かとご負担をおかけすることになりますが、どうかよろしくお願ひいたします。

十月三十一日(水)県教育委員会室にて、県教委からは林教育長以下七名、当連合会からは掛谷会長以下十名が参加して、懇談会が開催されました。

懇談会の内容は、①高等学校再編の進め方②いじめ等高校生の問題行動を無くすための取り組み③福井県の高校生の学力の現状と課題④国体を控えた競技力の向上⑤PTA会費の使い道⑥平成二十六年全国高P連福井

紙面の都合で、①と②について、懇談の内容をいくつか紹介したいと思います。

INFORMATION

インフォメーション

事務局所在地

〒九八八云 福井市下六条町一四一
福井県生活学習館二階
TEL 〇七七六一四一四〇五三
FAX 〇七七六一四一四〇三三

高校生総合保障制度

(昨年度の事故受付状況と保険金請求手続について)

二〇一二年度も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やさまざまなお問い合わせが保護者の皆様から当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続についてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇一二年度の事故受付状況ですが、事故件数は四七一件ご請求をいただきました。(昨年の件数より四件減少しております)。件数の内訳ですが、後遺障害保険金といった重大な事故での保険金請求はございませんでした。事故の内容ですが、最も多いのはスポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっています。

この保障制度ではケガ以外に第三者への賠償事故も対象となつておりますが、昨年度は二一件報告されております。自転車に乗つていて歩行者や他の自転車と接触しケガをさせてしまふケースや、学校内の窓ガラスなど備品の破損が多く、また、誤つて友人の持ち物を壊してしまつたり、場合によつては人に怪我を負わせてしまうケースさえあります。もちろん故意に行つたものではありませんが、保険があるという事で役立つているようです。最後に、ケガだけなく病気の入院を補償するプランに加入されている方もいらっしゃいますが昨年度は一四件のご請求があり、一昨年度の一八件よりも四件減の請求件数となりました。疾患の内容は熱中症やヘルニア、急性胃腸炎などで入院され、ご請求をいたしております。昨今の医療費の増加傾向はご存知の通りです。今後は病気も含めた補償もお子様の為にお考え頂ければよりご安心かと思います。

二、保険金の請求方法について

ケガをした場合)

①事故の連絡先フリーダイヤル 0120-013000-3994 : 二四時間受付)まで事故の状況につきましてご連絡ください。必要書類等につきましてご案内いたします。

②ケガによる入院が終わった後、傷害保険金請求書に必要事項をご記入の上、保護者の署名捺印をして、指定の宛先までご郵送ください。その際、診察券、治療費領収証(いずれもコピー可)を添付していただければ診断書は不要です。(但し、重大事故の場合には別途診断書をご手配いただくこともあります。)

(賠償事故の場合)
病気も補償されるプランに加入されている方で保険金請求をされる場合も右記フリーダイヤルにご連絡ください。お手続きについて別途、案内させていただきます。

(病気の場合)
病気も補償されるプランに加入されている方で保険金請求をされる場合も右記フリーダイヤルにご連絡ください。お手続きについて別途、案内させていただきます。

1. 概要

- (1)傷害補償:加入した高校生の3年間、1日中24時間のケガや万一の場合について補償されます。※Sプランについては病気補償もされます。
- (2)賠償責任:高校生があやまって他人にケガをさせたり、他人の物を壊したときの法律上の賠償責任が補償されます。
- (3)加入了した高校生だけでなく、同居の家族全員が利用できる「医療・健康相談」制度があります。(通話料無料)
- (4)この制度は、主として新入生を対象としています。

2. 内容(Sは病気補償+地震補償、Aは地震補償付き)

補 償 内 容	病気補償+地震補償		地 震 补 償		自転車重点補償 Cプラン		
	Sプラン	Aプラン	Bプラン	Cプラン			
①個人賠償責任補償 (一事故あたりの支払限度額)	(最高)5,000万円	(最高)3,000万円	(最高)3,000万円	(最高)3,000万円			
②育英費用補償	(一時金)100万円	(一時金)100万円	(一時金)100万円	(一時金)100万円			
③学校管理下動産補償 (自己負担額1,000円)	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円	契約年度毎に 最高5万円			
④自転車事故による 傷害(ケガ)の補償	死亡保険金額 610.1万円 (475.5万円)	584.2万円 (462.6万円)	572.1万円 (459.7万円)	519.2万円 (429.7万円)			
	後遺障害保険金 (障害の程度によって)	約18.3万円~610.1万円 (約14.2万円~475.5万円)	約17.5万円~584.2万円 (約13.8万円~462.6万円)	約17.1万円~572.1万円 (約13.7万円~459.7万円)	約15.5万円~519.2万円 (約12.8万円~429.7万円)		
	手術保険金 (所定の手術の種類によって)	2.1・4.2・8.4万円 (入院を伴う手術が対象)事故あたり1回)	1.9・3.8・7.6万円 (入院を伴う手術が対象)事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象)事故あたり1回)	補償しません		
	入院保険金日額 (180日限度)	6,100円	5,900円	5,500円	4,000円		
	通院保険金日額 (90日限度)	3,400円	3,200円	3,000円	2,000円		
	⑥傷害医療費用補償 (1事故あたり)	最高50万円	最高50万円	補償しません			
	死亡保険金 230.1万円 (167.5万円)	204.2万円 (154.6万円)	192.1万円 (151.7万円)	139.2万円 (121.7万円)			
⑤自転車事故以外の 傷害(ケガ)の補償	後遺障害保険金 (障害の程度によって)	約6.9万円~230.1万円 (約5.0万円~167.5万円)	約6.1万円~204.2万円 (約4.6万円~154.6万円)	約5.7万円~192.1万円 (約4.5万円~151.7万円)	約4.1万円~139.2万円 (約3.6万円~121.7万円)		
	手術保険金 (所定の手術の種類によって)	2.1・4.2・8.4万円 (入院を伴う手術が対象)事故あたり1回)	1.9・3.8・7.6万円 (入院を伴う手術が対象)事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象)事故あたり1回)	補償しません		
	入院保険金日額 (180日限度)	2,100円	1,900円	1,500円			
	通院保険金日額 (90日限度)	1,400円	1,200円	1,000円			
	⑥傷害医療費用補償 (1事故あたり)	最高50万円	最高50万円	補償しません			
	⑦細菌性食中毒補償	補償します					
	⑧熱中症補償	補償します					
⑨地震・噴火・津波補償	⑨地震・噴火・津波補償	上記②⑤⑥の内容で補償します					
	疾病入院医療保険金日額 (1泊2日以上の入院・60日限度)	2,000円	補償しません				
	疾病手術医療保険金 (所定の手術の種類により)	2・4・8万円					
	疾病入院療養一時金 (60日以上の入院が必要と診断された場合)	20万円					
	24時間医療健康電話相談	あり	あり	あり	あり		
	制 度 掛 金 (3年間一括)	35,000円	28,000円	20,000円	10,000円		

制度掛金には制度運営費140円を含みます。上記保険金額・掛け金制度は、加入者1,000名以上の場合は1,000名未満の場合は保険金額が変更になります。詳しくはパンフレットにてご確認ください。

● お問い合わせ先・連絡先 ● 福井県高等学校PTA連合会「高校生総合保障制度」事務局

〒910-0006 福井市中央3-3-23 北陸中央ビル5階 AIU保険会社内 TEL 0776(28)0144(月~金、9:00~17:00)

引受保険会社/AIU保険会社(幹事)・あいおいニッセイ同和損害保険株・株損害保険ジャパン・三井住友海上火災保険株